

令和8年度 学校「学ぶ力」育成プログラム  
 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：22006

「学ぶ力」	
成果	課題
◇「自ら考えて動き出す」子どもの育成を目指し、行事や児童活動に自治的な取り組みを意識させながら教育活動に取り組んだ。「疑問や課題を解決するために、自分で方法を考えるようにしている。」「自分でやると決めたことはやり遂げるようにしている。」児童の割合が増えている（共通指標 R6→R7）。 ◇「徹して一人を大切に」の考え方に基づいた、児童の自己肯定感を高めるためのかわりによって、「自分や人のよいところに目を向け、人の役に立ちたい」と考える児童の割合が増えている（共通指標 R6→R7）。	◇「自分の目標をもって生活している。」「自分で計画を立てて勉強している。」児童の割合が減少している。与えられた課題には前向きに取り組む一方、「自ら課題を見付ける」ことが苦手な児童の割合が多い。（共通指標 R6→R7） ◇「自分の意見を進んで発言しようとしている。」児童の割合が減少している。人前で発言することを委縮したり、間違えることを嫌がったりする児童の割合が多い。（共通指標 R6→R7）
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
◇「全ての子がしあわせを感じる しあわせいっぱい新川の子」を目指す子ども像に掲げ、アンケートでも相互承認の感度は上昇傾向が見られる（共通指標 R6→R7）。今年度は『あいさつ』に重点を置いたさまざまな活動を通して、全校で他者への承認／他者からの承認の経験値を高める取組を通じた相互感度の向上を目指している。	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

自ら考えて動き出す力

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自主的な活動の充実 に向けて
	(1) 子どもが学びのコントローラーを手にするための、「系統性」「連続性」を意識することができるような広い視野の単元デザインを作成する。 (2) 指導と評価の一体化を目指した研修と教材研究を実施する。 (3) 新学習指導要領に向けた研修を実施する。	① 子どもが主体的に参画する自主的な要素を盛り込んだ行事を計画・実施することで、全校の一体感や児童の所属感を生み出すことを目指す。 ② 子どもがお互いの活動に興味をもち、他組織や他学年とのかかわりを意識した児童活動を計画・実施する。
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICT の活用について		
◇子どもの学びを深めるための ICT 機器の活用と、ICT 支援部を中心とした環境整備と研修の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもが主となり、ICT 機器の活用方法を選ぶことができる情報活用能力と、安心して ICT 機器を活用するための情報モラルを育成する。</li> <li>意図的に交流の機会を設定することで、ICT を通して子どもが自らの考えを伝え合おうとする意欲と態度を身に付ける。</li> <li>上記を指導する教員のスキルアップを目指したミニ研修を、年に複数回実施する。</li> </ul>		

<本プログラムの実行に向けて>

